

### 小、中学校 町内140人がつれじ卒業

3月、町内140人の小、中学生が慣れ親しんだ学び舎(や)から希望のつばいに巣立ちました。

東川小学校(飯森修校長)では18日、55人が卒業しました。

真新しい中学校の制服姿に混じって、はかま姿が残りしい卒業生も。

「野球選手になりたい」「ピッチャーで沢村賞を取りたい」「世界を旅してたくさんの人に会いたい」「掃除、洗濯を完璧に



できるお母さんのような大人になりたい」などと一人ずつ夢を披露。在校生の紙ぶきと紙トンネルで華やかに見

送りを受けました。

町内の卒業生は、第一、第二、第三の各小学校でそれぞれ1人9人、4人で、小学校全体では昨年より9人少ない69人でした。

◇ 13日に卒業式を行った東川中学校(森雅則校長)では昨年よ

り20人少ない71人が卒業しました。森校長は「夢を追いかけて、夢の実現に向けて一歩ずつ、おきらめずに進んでほしい」と一人ひとりに卒業証書を手渡しました。

今年の生徒からは、卒業と同時に教室で使ってきた学習椅子を卒業記念として持ち帰ることが出来るようになりました。71人はその第一号卒業生です。

名前を刻み入れ、大切に使用してきたそれぞれの椅子は、教室での時間をと



もに過ごしてきた「記憶の椅子」になりました。一人ひとりに大切に抱えられて教室に別れを告げました。

松岡市郎町長は「椅子は居場所。そして2つの意味がある。1つは座るという意味。生涯にわたって子供や孫たちに自慢できる椅子であってほしい。2つ目は職業を表す椅子。皆さんはどのような椅子を目指するのか、自らの努力で輝かしい未来の椅子に座ってほしい」と門出の言葉を贈りました。

### 雪の中を走るがれ！ 忠別ダムで冬イベント

3月5日、忠別ダムサイト広場で忠別ダム第4回冬イベント「冬のワイワイまつり」が開かれました。

忠別ダム水源ビジョン「遊100忠別」(鈴木健治代表)の主催。今年旭川市内、隣町東神楽町内からの親

子連れが多く参加しました。この日は大粒の春の雪が時折降り、ダムサイト下の広い広場はまだまだ冬真っただ中。森を散策するスノーシューキング、タイヤチェーン滑り、ポリバケツで作った氷を積み上げて高さ

競うスノーシューゲーム、雪中宝探しゲームで春間近の季節の訪れと雪の感触を体いっぱい感じて休日を楽しみました。



### 「君の椅子」、歌と一緒にプレゼント

町内で誕生した赤ちゃんにプレゼントしている「君の椅子」に同名の歌のプレゼントをつけて、幼児センターで新生児の赤ちゃんに椅子を引き渡す初めての「君の椅子」プレゼントセレモニーを行いました。



3月9日、生後100日以上元気な赤ちゃんとお母さん15組が集まり、松岡市郎町長から2010年デザイン

の椅子をもらいました。もう一つの贈りものは、札幌拠点に活動している音楽グループ「JUNC O&CHEER」の2人が「君の椅子」をテーマに作った同名曲「君の椅子」(北埜うさぎ作詞、広石正宏作曲)の

歌声と特別版CD。昨年10月に開いた農村環境改善センターコンサートで発表した特別な曲です。

「誕生おめでとう 僕は君の椅子」と歌う幼児センターの5歳児38人

の歌声とやさしい歌詞に、お母さんの感激もひとしお。

2010年版の椅子を受け取ったのは、昨年7月15日以降12月31日までに生まれた新生児。3月末までには生後100日を迎えた68人です。2006(平成18)年の第1回以来、延べ270人になりました。

### 東川中吹奏楽部が卒業コンサートで義援金

東川中学校吹奏楽部(谷川綾音部長)の卒業コンサートで集めた善意の義援金を持参して、東川中学校を卒業した吹奏楽部の谷川綾音さん(15)、坂本美香子さん(15)の2人が役場を訪れ、松岡市郎町長に現金を手渡しました。

3月22日、顧問の西田雅寛先生と一緒に来庁しました。前日の21日農村環境改善センターで開いた卒業コンサ

### 「ももんがの森の大きな木」に新しい名刺増えまよ

3月17日、幼児センターの「ももんがの森の大きな木」に、3月で卒園した園児77人の木の新しい名刺が増えました。木の葉つばの形をした木製プレートに一人ずつ自分の名前を書いて大きな木に取り付け、「元気に卒園します」と森の動物たちに報告しました。

「ももんがの森の大きな木」は、同センター内の廊下の壁一面にある天然木の木製シェルフ。森の大きな木の下



にはリス、きつね、オオカミなどたくさんさんの森の仲間動物たちと人間の親子がみんな笑顔で一緒に遊んでいます。

毎年増えていく木の葉つばは、6年後に小学校卒業の時に「思い出の葉つば」として、一人ひとりにプレゼントの予定

です。「ももんがの森」は昨年できました。これで卒園生の葉つばのプレートは148人分になりました。

ンタッチしました。町では日本赤十字社東川町分区分区を通じて義援金を届けることにしています。

トで、観客約180人に東北関東大震災の被災者への義援金を呼びかけ、持参した募金箱と同センターに設置してある募金箱を持って生徒が会場を回りました。その結果集まった金額は、持参した募金箱だけで4万4千132円にも達しました。

「被災者への支援に役立ててください」と松岡町長に手渡し、善意をバト

